

I 章 IBDの診断

1 UC の基礎知識と治療目標	2
2 CD の基礎知識と治療目標	4
3 UC を疑うべき患者像	6
4 CD を疑うべき患者像	8
5 大腸内視鏡をする前の問診, 診察と検査	10
6 内視鏡時の注意点, 典型的内視鏡像と病理像	12
7 鑑別が必要な疾患と鑑別法	14
Column 8 地中海熱腸炎	17
9 診断, 鑑別時に大腸内視鏡以外に行うべき検査	18
10 IBD と診断がついたときの患者さんへの説明	20

II 章 IBDの治療

II-1 潰瘍性大腸炎 (UC)

基本知識

11 治療開始前の評価と初期治療	24
12 治療法 (薬の種類と治療の流れ)	26
13 治療の大原則	28
Column 14 いつでも粘膜治癒を目指すべきか? 組織学的寛解とは?	31

寛解導入療法: 軽症~中等症 (軽め)

15 メサラジン製剤の種類と特徴	32
16 メサラジン製剤の使い方と注意点	34
17 5-ASA 製剤を上手に使うコツ	36
18 局所製剤の選び方, 使い方	38
19 メサラジン製剤の副作用と対処法	40

寛解導入療法: 中等症 (重め)

20 ステロイドの使い方と注意点	42
------------------	----

21 ステロイドの副作用と対処法	44
Column 22 胃薬のデメリットと整腸薬のメリット	46
23 GMA の適応と使い方	48

寛解維持療法とチオプリン製剤

24 寛解維持療法のコンセプト	50
25 チオプリン製剤の特徴とNUDT15遺伝子多型	52
26 チオプリン製剤の使い方と副作用の対処法	54

難治例, 重症例に対する治療

27 難治・重症例に対する治療方針	56
28 難治例の治療前にすべきこと, 考えること	58
29 難治性UC に対するバイオ製剤の選び方	60
30 抗TNF- α 抗体の作用機序, 適した患者像と使い方	62
31 ベドリズマブの作用機序, 適した患者像と使い方	64
32 ウステキヌマブの作用機序, 適した患者像と使い方	66
33 トファシチニブの作用機序, 適した患者像と使い方	68
34 バイオ製剤の有効性の見極め, 中止, スイッチ	70
35 バイオ製剤の副作用と対処法	72
Column 36 バイオ製剤メーカーの欺瞞を見抜く	74
37 入院管理の適応と気を付けること	76
38 腹痛・発熱の対処法	78
39 重症入院の治療方針と高用量ステロイドの使い方	80
40 タクロリムス・シクロスポリンの使い方	82
41 タクロリムス・シクロスポリンの投与のコツと注意点	84

II-2 クローン病 (CD)

基本知識

42 治療開始前の評価と検査	86
43 治療法 (薬の種類と治療の流れ)	88
Column 44 かつてのCD 治療法	91
45 CD の自然史といつまで治療するか?	92
Column 46 treat to target とは何か?	94

バイオ製剤以外の治療

47 栄養療法の位置づけと方法	96
48 5-ASA 製剤・抗菌薬の位置づけ	98
49 ステロイドからチオプリン製剤へ	100
50 ゼンタコート® の使い方	102

バイオ製剤による治療

51 バイオ製剤の特徴	104
52 インフリキシマブの適した患者像と使い方	106
53 アダリムマブの適した患者像と使い方	108
54 ウステキヌマブ・ベドリズムマブの適した患者像と使い方	110
55 効果減弱の判断と対処法	112
56 バイオ製剤のスイッチの仕方	116

Column 57 IBD の今後の新薬	118
----------------------	-----

Ⅲ章 外来でのIBDの診かた

58 外来フォローの心構え	122
Column 59 患者さんの性格，社会背景と治療選択	125
60 外来診療の治療目標	126
61 問診，診察の仕方とカルテの書き方	128
Column 62 IBD 患者さんとその母親	131
63 モニタリング法の使い方	132
Column 64 IBD 患者さんのIBS 症状と下痢止め	135
65 外来時の血液検査と通院・検査間隔	136
66 便検査(カルプロテクチン，FIT)の使い方	138
67 再燃のトリガー	140
Column 68 薬をサボる患者さんへの対策	143
69 再燃と感染合併の見極め方	144
70 内視鏡を行うタイミングと施行時の注意点，その他の画像診断	146
71 再燃をふまえた診療の流れ	148
72 どこまで自分で診て，どこから専門医に紹介するか？	150

Ⅳ章 発癌と手術

Ⅳ-1 UCに対する手術と術後

73 手術の適応・時期・術式	154
Column 74 IBD 手術の最近の傾向	157
75 手術後の合併症と回腸嚢炎	158

Ⅳ-2 CDに対する手術と術後

76 手術の適応・時期・術式	160
77 肛門病変に対する手術	162
78 手術後の治療方針	164

Ⅳ-3 UC・CD由来の発癌と治療

79 IBD 患者さんは手術後にどのような状態になるか？	166
80 UC の発癌とそのサーベイランス	168
Column 81 発癌を予防するためには，やっぱり粘膜治癒か？	171
82 CD の発癌とそのサーベイランス	172
83 UC およびCD の内視鏡治療	174

Ⅴ章 腸管外合併症

84 腸管外合併症にはどのようなものがあるか？	178
Column 85 IBD 患者さんは何に困っているか？	179
86 皮膚病変の特徴と対処法	180
87 関節炎・関節痛の診断と対処法	182
88 原発性硬化性胆管炎と高安動脈炎	184
89 その他の腸管外合併症	186
90 IBD の貧血の鑑別と対処法	188
91 IBD の上部消化管病変	190

VI章 スペシャルシチュエーションと情報

92	スペシャルシチュエーションとバイオ製剤の選択	194
93	小児のIBD の診断と治療	196
94	高齢者のIBD の特徴と治療	198
Column 95	特殊なIBD	201
96	B型肝炎合併例・結核・T-スポット [®] 陽性例の対処法	202
97	IBD 関連感染症 (CMV・ <i>C. difficile</i>) の診断と対処法	204
Column 98	糞便移植	207
99	妊娠・出産・授乳	208
100	日常生活・食事・他の疾患の薬	212
101	予防接種	214
102	難病医療費助成制度	216
Column 103	難病医療費助成制度の副作用	218
104	身体障害者・障害年金	219
105	学校・就職・仕事・生命保険	220
106	ジェネリック医薬品とバイオシミラー	222
107	青黛 (広島漢方)	224
Column 108	IBD と新型コロナウイルス	226
薬剤一覧		228
略語一覧		230
index		232

IBD の診療は、さまざまな情報を基に、多角的に捉えていく必要があります。そのため、本文内には関連する内容の項目番号を記載しています。本書を読む際は、これらの項目にも目を通し、IBD の理解を深めてください。

■ 中等症までだが難治な場合

入院するほどではないが、ステロイドはステロイド依存性 (ステロイドは → 20 がこれに当てはまります。

ステロイド剤 → 25 が第 JAK阻害薬と

20

II-1 消化性大腸炎 (UC) 寛解導入療法：中等症 (Ⅱb) ステロイドの使い方と

まずはココから

"いずれ止める薬"であるという認識をもつ。